

ジェンダー教育 プログラム

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょう。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは? (Gender Education Programの略)

一橋大学では、2005年度より、全学的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできました。2007年度にはその推進母体として社会学研究科内にジェンダー社会科学研究センターを開設し、毎年およそ50科目、延べ4000名の学生・院生のみなさんにジェンダー、セクシュアリティに関するさまざまな授業を提供しています。このような全学的プログラムはとてもユニークなものであり、多種多様な分野にまたがってこれほど多くのジェンダー関連科目を提供できる大学は一橋大学のほかにはありません。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から各学部・大学院科目にまでいたるこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待しています。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
<http://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>



GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みんなが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気付き、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指す
ゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い合わせていきます。

履修のツボ

緩やかなスロープ

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいくカリキュラムがつくられています。

キャリアデザイン

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずです。

多様なセクシュアリティ

ジェンダーとセクシュアリティを切り離して考えることはできません。人間の性のあり方とその多様性を知ることは、自分自身の生き方を考え、周りの人の生き方を尊重するためにも不可欠です。

新しい社会科学

それぞれの専門的知見を深め研究を発展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

これから社会人として生きていくうえで大切なことを考えるよい機会になった。
性について、これほど学問的に深く考えたことはなかった。
新しい思考法を身につけられた気がする。
「男は」「女は」という言説があふれている。
自分の中の偏見や先入観の存在に気づくことができた。
ちまたにあふれる性に関する情報を批判的に見ることができるようになった。
たくさんの中にも、特に男子学生に、受けたかったと思つた。

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、なんでも相談できる場所があります。
学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

学生相談室

第2講義棟1階西側「いまここ」JHP
<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/>

キャリア支援室

本館1階
http://www.hit-u.ac.jp/shushoku/career_support/top.html

ハラスメント防止ガイドライン

<http://www.hit-u.ac.jp/harassment/pdf/guideline.pdf>
ハラスメントとは、人間としての尊厳を侵害する行為であり、人に対する思いやりと敬意を欠いた行為です。一橋大学は、すべての学生と教職員の人権が尊重され、ハラスメントを受けることなく、本学において修学・教育・研究し、就労することができる環境を享受できるよう努め、ガイドラインを定めています。

ジェンダーとセクシュアリティの心理学

[社・発展※／春夏・月1]

柘植道子

心理学の視点からジェンダーとセクシュアリティにアプローチします。具体的には、セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー・ステレオタイプ、ジェンダー役割負担、性役割態度、性差、インターフェンス、心理学研究におけるジェンダーバイアスなどを扱います。

教養ゼミナール

[共通／春夏・水2]

前田真理子

この授業ではジェンダーというレンズを通して、ディズニー・プリンセスたちを捉え直します。より立体的で現実的なプリンセスたちを探しに行きましょう。(なお抽選科目です。)

ヒューマンセクソロジー

[共通／春夏・OD]

水野哲夫

性は人格と深く結びついており、人権の欠かせない要素でもあり、「セクシュアリティ」として捉えるべきものです。この科目は『改訂新版ヒューマン・セクソロジー』をテキストに、「性の多様性とジェンダー・セクシュアリティ平等」、「生殖をめぐる科学と人間関係」、「性愛のゆくえ一性の関係性を問い合わせる」、「さまざまな性感染症」、「性と人権をめぐる現状と展望」という章だけで、性的自己決定力の獲得をめざすものです。

ジェンダー/セクシュアリティとライフデザイン

[社・導入／秋冬・月2]

神谷悠一

性の多様性をめぐる現代社会の状況を理解し、大学で学ぶジェンダーやセクシュアリティについての知見を生涯にわたる社会生活や職業生活にいかに活かしていくか、社会環境にいかにして働きかけるかを実践的に考えます。LGBTQ+フレンドリーな学内環境づくりを目指す「一橋プライドフォーラム」と連携しています。

ジェンダーと人権

[共通／秋冬・月3]

糠塚康江・谷田川知恵

社会や法におけるジェンダー(性差)、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点(「ジェンダー人権論」)からアプローチします。憲法や女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法等を踏まえて、日本の男女共同参画(ジェンダー平等)の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治・雇用・家族・身体・学術分野等の領域ごとに具体的に検討していきます。

ジェンダー論

[社・発展※／秋冬・火金3]

佐藤文香

ケア・国家・軍隊・ポルノグラフィ・法など、ジェンダー関係の再編をめぐってフェミニズムの中に蓄積されてきたいくつかの争点を、理論的立場の相違として考察していきます。

Topics of Modern and Contemporary History A

[社・発展※／秋冬・木2]

田中亜以子

「ジェンダー史」の重要先行研究を英語で輪読し、ディスカッションを行う授業です。ジェンダー史研究は、ジェンダー分析を行う上での重要な枠組みや理論を多く産出してきました。原典に直接ふれ、ジェンダー分析について考えを深める機会を提供します。

ジェンダー史特論

[社・発展※／秋冬・木3]

田中亜以子

歴史的なアプローチによってジェンダーを探求する「ジェンダー史」の領域を学びます。ジェンダー史という領域が成立していった背景を論じるとともに、日本における「性別」観念の歴史的変容について詳しく議論します。

全学共通教育科目

| 頻度 | 学部・区分 | 曜日・時限 | 講義名 | 担当者 |
|----|-------|--------|------------------|-------|
| ○ | 共通 | 春夏・金2 | 英文学原典講読Ⅱ(英語圏文学E) | 川本玲子 |
| ○ | 共通 | 夏・集中OD | 教育と経済 | 松塚ゆかり |
| ○ | 共通 | 秋冬・火4 | 英語(リーディング)Ⅲ | 川本玲子 |
| ○ | 共通 | 秋冬・木2 | 教育と経済開発 | 松塚ゆかり |
| ○ | 共通 | 秋冬・金2 | 英語圏の社会と文化 | 早坂静 |

学部

| 頻度 | 学部・区分 | 曜日・時限 | 講義名 | 担当者 |
|----|-------|--------|------------|-------|
| ★ | 社・導入 | 春夏・火4 | 社会研究入門ゼミ | 佐藤文香 |
| ○ | 法・基礎 | 春夏・OD | 民法(家族) | 石綿はる美 |
| ○ | 社・基礎 | 春・月6 | 国際社会学IA | 飯尾真貴子 |
| ○ | 経・基礎 | 春・月木1 | 経済思想 | 後藤玲子 |
| ○ | 社・発展※ | 春・月木3 | 比較・国際教育学 | 太田美幸 |
| ○ | 社・基礎 | 春・OD | アメリカ社会史総論A | 貴堂嘉之 |
| ○ | 社・基礎 | 春・OD | 政治学 | 中北浩爾 |
| ○ | 社・基礎 | 春・OD | アジア社会史総論 | 加藤圭木 |
| ○ | 経・導入 | 春・OD | 経済史入門 | 森宜人 |
| ○ | 商・導入 | 夏・火金1 | 原価計算 | 挽文子 |
| ○ | 社・発展※ | 夏・月木2 | 社会の構造と変動D | 加藤旭人 |
| ○ | 社・基礎 | 夏・月木3 | 社会政策総論 | 白瀬由美香 |
| ○ | 法・基礎 | 秋冬・月水2 | 国際私法 | 竹下啓介 |
| ○ | 社・基礎 | 秋冬・火3 | 社会史資料講読A | 加藤圭木 |
| ★ | 社・導入 | 秋冬・金2 | 社会研究入門ゼミ | 田中亜以子 |
| ○ | 法・基礎 | 秋冬・OD | 憲法(総論・人権) | 矢島基美 |
| ○ | 社・発展※ | 秋・月木3 | 社会福祉 | 白瀬由美香 |
| ○ | 社・導入 | 秋・OD | 社会科学概論II | 太田美幸 |
| ○ | 社・発展※ | 冬・火金2 | 社会の構造と変動E | 河村裕樹 |
| ○ | 法・基礎 | 冬・火金4 | 対外政策論 | 石塚英樹 |
| ○ | 社・基礎 | 冬・OD | 雇用関係総論 | 西野史子 |
| ○ | 社・基礎 | 冬・OD | 教育の社会学B | 中田康彦 |
| ○ | 社・基礎 | 冬・OD | スポーツ社会学の基礎 | 坂なつこ |
| ○ | 社・基礎 | 冬・OD | 社会学理論 | 多田治 |
| ○ | 社・発展※ | 冬・集中1 | スポーツと開発 | 鈴木直文 |

<講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安>

★：講義全体をジェンダーの視点から構成する

○：ジェンダーを講義の一つの柱とする

○：ジェンダーについて1,2回取り上げる

※は学部・大学院共修

ODはオンデマンド(録画)配信

最新情報および委細は各授業のシラバスで確認してください。また履修登録の際に
は、学士課程ガイドブック(学部)／学生便覧(大学院)に従ってください。

◆基幹科目◆

社会科学のなかのジェンダー

[社／春夏・金2]

佐藤文香・貴堂嘉之

既存の社会科学/人文科学のディシプリンとジェンダー研究とを融合させて、ジェンダー視点を組み入れた社会科学の新たな可能性を切り拓くことを目的としたオムニバス形式の講義です。

平和とジェンダー

[社／秋冬・火4]

佐藤文香

フェミニスト国際関係論の文献講読を通じて、平和に対するアプローチの独自性やその課題について議論していきます。

◆連携科目◆

| 頻度 | 研究科 | 曜日・時限 | 講義名 | 担当者 |
|----|-----|-------|---|-------|
| ○ | 社 | 春夏・火2 | 文化生成研究 | 洪郁如 |
| ○ | 社 | 春夏・火3 | 多文化社会の人間形成 | 太田美幸 |
| ○ | 言社 | 春夏・火4 | 文献演習(英語A) | 川本玲子 |
| ○ | 社 | 春夏・水1 | 地球社会と生命 | 宮地尚子 |
| ○ | 社 | 春夏・木3 | 国際社会学特論 | 飯尾真貴子 |
| ○ | 社 | 春夏・金3 | アメリカ研究 | 貴堂嘉之 |
| ○ | 社 | 春・月木3 | グローバル化と教育 | 太田美幸 |
| ○ | 言社 | 冬・集中1 | 文献演習(英語B) | 井上間従文 |
| ○ | 社 | 秋冬・月4 | グローバル・メディア論／社会学 | 多田治 |
| ○ | 社 | 秋冬・火2 | 雇用政策 | 西野史子 |
| ○ | 社 | 秋冬・水2 | トラウマと地球社会 | 宮地尚子 |
| ★ | 法 | 秋冬・水2 | Special Case Study on Theories of International Relations | 前田真理子 |

CGraSS公開レクチャー・シリーズ

ジェンダー研究の新しい方法を模索し、社会科学の手法との融合をいかにして果たすのか。社会学研究科内に設置されているジェンダー社会科学研究センター(CGraSS)では、この課題にこだえるため、さまざまな研究領域の専門家のゲスト報告者を招いて、公開レクチャー・シリーズを展開しています。また、シンポジウムの共催や合同研究会などを行い、教員・院生の相互交流を奨励・推進しています。

【参考】2021年度のCGraSS公開レクチャー・シリーズ

「なぜ包茎は恥ずかしいのか—男性間支配と女性差別を架橋する歴史社会学」
2021年4月28日

講師：澁谷知美さん（東京経済大学全学共通教育センター准教授）

「ヤンチャな子ら」の大人的移行と男性性」

2021年7月21日

講師：知念涉さん（神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部講師）

「性愛規範と最小結婚——シェアハウス研究との接点から」
2021年10月6日

講師：久保田裕之さん（日本大学文理学部教授）

「離婚後の子の監護のあり方とジェンダー」

2021年11月24日

講師：千田有紀さん（武藏大学社会学部教授）

「日本の台湾認識とジェンダー」

2021年12月3日

講師：洪郁如さん（本学大学院社会学研究科教授）